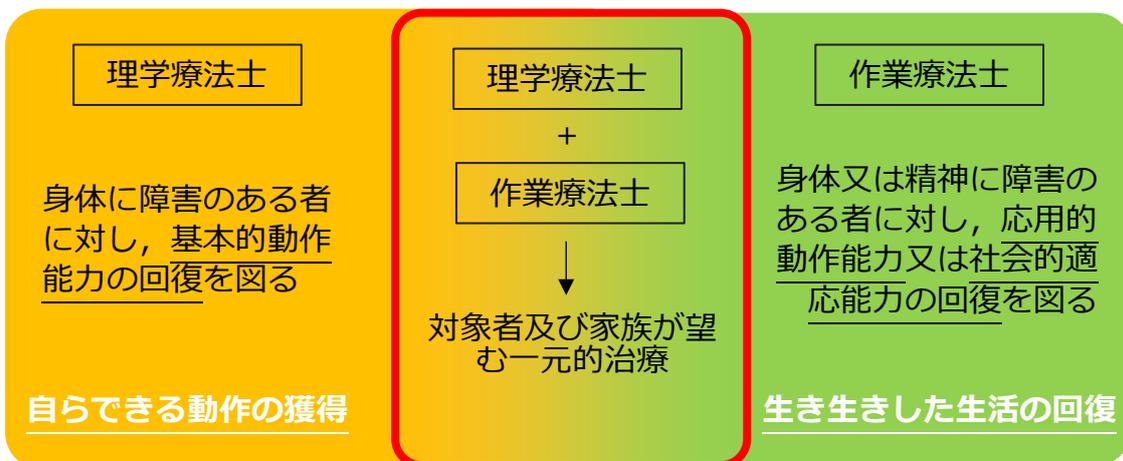


## リハビリテーション医療の現況

リハビリテーションは、新生児から高齢者までの幅広い年齢層を対象に発症直後の集中治療室などから自宅での生活に至るなかで行われています。この中でも高齢者に対するリハビリテーションは重要な柱の一つです。身体機能の低下だけではなく認知症をともなった高齢者の大幅な増加が 2025 年を目途に見込まれています。これら的高齢者の方々が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、支援システムの拡充が進められています。

リハビリテーションは、対象となる方々の人間としての尊厳、権利を維持・回復するために多職種が連携し、チームを組んで行われます。医療機関での仕事に加え、高齢対象者の自宅での生活を支えるためのリハビリテーションチームの役割は非常に重要です。それゆえ、現場からは理学療法士および作業療法士の質の向上、および理学療法と作業療法の両方の知識・技能を活かした総合的な治療や支援のできる人材が求められています。



## リハビリテーション科学の現況

リハビリテーションには、急性期から回復期までのリハビリテーション医療や、福祉分野での介護予防事業、地域包括ケアなど幅広く多様な役割が求められています。効果のエビデンスも継続して確立していく必要があり、臨床的な研究だけではなく基礎的な研究も充実させることが重要です。また、対象となる方々を評価する方法や治療法は欧米で開発されたものが多く、日本の文化的背景に合った評価法・治療法の開発も必要とされています。

## 求められる人材

以上の現況より、以下のような人材が求められています。

- ① 質の高い理学療法士および作業療法士
- ② 急性期、回復期、維持期の各期に必要な両方の専門性を備えた人材
- ③ リハビリテーションにおける評価法・治療法の研究・開発のできる研究者

## 金沢大学の改革の方向性

金沢大学は上記の人材の育成のため、以下の改革を行います。

- ① リハビリテーション医療全体に関心を持つ意欲的な学生の受け入れを可能とする理学・作業併願入試の実施



- ② 他方の専門科目の履修が最大 20 単位可能となるカリキュラムへの変更



- ③ 3 年次編入学で 2 つ目の資格の取得と研究者を目指した「理学・作業療法ダブルプロフェッショナル・プログラム」の新設

